1　事業の成果

1.1 現地での植林・生活林再生事業

1.1.1 植林事業の概要

IHC2021 年度の事業では、2 ヵ村のプロジェクトサイトで植林・育苗が行われました。年間の育苗数は、バランジャ村 5,000 本（前年 26,239 本）、レスパル村約 3,000 本（前年 11,293 本）、合計 植樹本数約 8,000 本となりましたとなりました。またレスパル村の支援は、2021 年 9 月をもって終了しました。ネパールでは 2019 年から続く COVID-19 の影響により、国境封鎖や物資の不足、人流抑制、集会の禁止などにより、稚幼木の育苗に大きく影響が出ました。ただし、2019 年度に支援を終了したジーン村やサリジャ村のナーサリーでは、村の独自の出資と人材動員により、ナーサリ ー業務は継続されています。 ネパールの村々では、COVID-19 による労働機会の減少や、将来の見通しの不安から、植林やナ ーサリーでの業務にも後ろ向きになっている傾向があります。バランジャ村、レスパル村では、今後も育苗支援や新規作物の導入により、農林産資源の活用と地域振興を実践します。

1.1.2 現地の状況の視察調査（2022 年 1 月）

[redacted]に 1 月 10 日～2 月 23 日まで、バランジャ村を中心に事業 地各地を視察いただきました。IHC 関係者 の現地渡航は 2 年 2 ヵ月ぶりであったことから、ネパール現地と事業地の現状を久しぶりに実見することができました。

◇パウダル村／訪問日 2022 年 1 月 19 日 パウダル村では、10 年以上続くチーズ工房を訪問し、職人たちとミーティングしま した。コロナ・パンデミックのロックダウ ンで 2 年間も工房を閉めたままで、とても困っている様子でした。村の乳牛飼育者 たちも、ミルクの買取先がなくなって困り再開には、まずは観光客や販路が確立されなければ ならないと話す職人さんたち 3 果て、結局は牛を売ってしまったとのことでした。もしチーズ工房が再開できればまた牛を飼う意思があるけれど、再開がいつになるか分からないので、これからどうしたらいいものか、と頭を悩ませているようでした。 工房の奥の貯蔵庫には古い売れ残ったチーズが 3 つだけ置かれた光景は、物寂しげでした。本当 にすべてが止まっている、という感覚です。工房が稼働していないので、チーズ職人の給料も現状はありません。 現在、IHC では乳牛をパウダルの学校に寄付する計画をしています。今後、村人や学校関係者のみなさんと話し合いの場が持てることとなりそうです。チーズ工房は、再開のための維持や清掃は 実施しているとのことでしたので、今後の再開を期待したいと思います！

◇スワンタ村／訪問日 2022 年 1 月 20 日

スワンタ村では、1970 年代に[redacted]が初期の活動で設置した、ロープラインを実際に視察しました。ロープラインで実際に薪や物資を運んでいたことのある宿屋の主人とも会うことができました。ただ、複数本のワイヤーのうち、真ん中あたりで 1 本切れているらしく、途中で引っか かって、このままだと使用困難とのことでした。 設置から 20 年程度経過した 90 年代に、一度ワイヤーは張り替えたとのことですが、老朽化もあり 再度の張り替えが必要とのことでした。 また、滑車も全部壊れているので新調したいとのこと。だいたい 35～40kg くらいの材木や飼料 を向こうの山から運ぶため、修復されればとても助かると話していました。いまは山まで歩いて採 取に行っている重労働をしているそうです。ワイヤーはネパ

ール現地では修理が困難かもしれないとのこと。日本からの物資輸 送も視野に入れなければならないかもしれません。 スワンタ村は、モハレダン ダやプンヒルなどの景勝地 への経由地点であり、普段は トレッカーでにぎわっているのですが、いまも客足はなく、ゲストハウスも仕事にな らないとのことでした。今後、 観光業の復活とともに、IHC のパンフレットをホテルや ゲストハウスにおいてもらえるように打診してきまし た。

1.1.3 キウイ栽培による生活・収入向上アグロフォレストリー事業　バランジャ村での活動報告

本会事業の一環として 2017 年 11 月より、バランジャ村で 59 株のキウイ栽培の試験区(0.18ha)を 開始しました。2019 年 4 月にバランジャ村に出張（7 日間）し、IHC への協力農家を募り、なかで もキウイ栽培に熱心な 10 家族を選定しました。これら 10 世帯の協力農家さんとは、キウイ栽培の基礎知識を講習会等により共有しました。ネパール中部でのキウイ苗の植え付け適期は 12 月半ば 以降であることから、12 月末に新規苗 150 本（オス 30 株／メス 120 株）の植え付けを実施しまし た。 現在もキウイ試験農場のキウイは育っており、一部樹木には結実が確認されるようになりました。 しかし、周辺樹木の伸長により日影ができるなど、7〜8 本ほどの樹木の生育が遅れており、接ぎ木 などで更新する必要が生じるなど、総合的な農地メンテナンスが必要となってきています。

1.1.4 日中友好会館「日中植林・植樹国際連帯事業 2021 年度」の採択

かねてから応募の打診をされていた日中友好会館「日中植林・植樹国際連帯事業 2021 年度」に 「ネパール西部ダウラギリ県での生活有用林再生の持続型アグロフォレストリー事業 」のテーマで 採択されました。プロジェクトは 2022 年 1 月よりすでにスタートしています。同事業では、荒廃 地・土砂災害地への植林のほか、事業地 6 村での果樹苗の植栽・分配も実施します。プロジェクトでは[redacted]の現地渡航（21 年度 1 月）が行われたほか、22 年度には、京都大学の土壌・ 生物学の専門家[redacted]の渡航（6 月）も予定されています。

1.2 日本国内事業の活動報告

1.2.1　国際交流・理解促進事業

ヒマラヤ山岳エコロジースクールは、事業実施にかかる旅行業者や人員の手配が難航しており、 集客面でも不安定要素があることから、ひきつづき体制を立て直して再稼働する準備を進めていま す。ただし、京都大学や早稲田大学には複数名の渡航希望者がいることから、学内ゼミや研究調査 渡航として、一部 MESS を引き継ぎながらあらたな形態のスタディツアーを模索しています。

1.2.2 国際協力イベントへの参加・広報活動・地球市民学習事業

例年恒例となった国際協力関連団体の一大フェスティバルであるグローバルフェスタ 2020（JICA ／外務省共催）は Online 開催となったため、21 年度は本格的な出展は見送りました。また国内の イベント各種が見送りや開催中止となるなど、国内活動全般は次年度以降に再スタートする予定です。

2　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業　　（事業費の総費用【　1,543　】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費（千円）
海外開発協力事業	植林事業 ・稚幼木生産・植林 ・苗畑・森林管理 ・生活林づくり ・果樹栽培 生活改善 ・栽培技術指導 ・マーケティング指導 地域の調査研究	通年	ミャグディ郡 パルパット郡	50名	事業地 2ヶ村	60,000人	1400
国際交流・理解促進事業	新型コロナのため、 イベント中止	通年			参加者 および 参加団体		
広報・地球市民学習事業	機関誌「シャングリラ」 発行（2月／8月）	通年		6名	会員		93
ネットワーキング・研究・提言事業	学会発表 研究交流	通年		3名	500人	500人	50

（2）その他の事業　　（事業費の総費用【　　】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費（千円）

2021年度 活動計算書

2022年4月1日～2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 ヒマラヤ保全協会

(単位:円)

科　目	2022年度実績
Ⅰ 経常収益	
1. 受取会費	
個人会員会費	180,000
団体会員会費	30,000
2. 受取寄付金	
受取寄付金	877,298
3. 受取助成金等	
受取助成金	455,200
受取補助金	0
4. 事業収益	
自主事業収益	0
5. その他収益	
受取利息	21
為替差益	0
雑収益	
経常収益計	1,542,519
Ⅱ 経常費用	
1. 人件費	
給料手当	
福利厚生費	0
人件費計	0
2. その他経費	
現地活動・評価費	472,060
売上原価	
旅費交通費	507,012
業務委託費	0
保険料	0
広報費	199,963
通信運搬費	46,714
消耗品費	0
事務用品費	25,817
図書資料費	0
諸会費	0
会議費	40,000
開発費	0
研修費	0
交際費	0
租税公課	0
支払手数料	2,530
水道光熱費	0
地代家賃	0
貸借料	0
為替差損	0
雑費	21,398
経常費用計	1,315,494
当期正味財産増減額	227,025
前期繰越正味財産額	5,312,140
次期繰越正味財産額	5,539,165

貸　借　対　照　表

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会
全事業所

［税込］（単位：円）
2022年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		流動負債　計	0
現　　金	2,983	**負債合計**	**0**
普通　預金	5,461,198	正味財産の部	
現金・預金 計	5,464,181	【正味財産】	
流動資産合計	5,464,181	前期繰越正味財産額	5,290,742
【固定資産】		当期正味財産増減額	248,423
（無形固定資産）		正味財産　計	5,539,165
電話加入権	74,984	**正味財産合計**	**5,539,165**
無形固定資産　計	74,984		
固定資産合計	74,984		
資産合計	**5,539,165**	**負債及び正味財産合計**	**5,539,165**

財　産　目　録

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会
全事業所

［税込］（単位：円）
2022年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】			
（現金・預金）			
現　　金	2,983		
現金（円）	(△ 73,117)		
その他補助	(76,100)		
普通　預金	5,461,198		
みずほ銀行	(216,974)		
三菱UFJ銀行	(1,155,246)		
郵便振替貯金	(3,035,651)		
ゆうちょ銀行	(934,303)		
みずほ銀行（その2）	(119,570)		
その他補助	(△ 546)		
現金・預金 計	5,464,181		
流動資産合計		5,464,181	
【固定資産】			
（無形固定資産）			
電話加入権	74,984		
無形固定資産　計	74,984		
固定資産合計		74,984	
資産の部　合計			5,539,165

《負債の部》

【流動負債】			
流動負債　計		0	
負債の部　合計			0
正味財産			5,539,165

2021年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人　ヒマラヤ保全協会

1　確認事項（法第２０条及び第２１条を確認の上、チェックを入れてください。）

☑以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第２０条関係）
☑各役員について、親族の規定に違反していません。（法第２１条関係）

2　役員一覧

	役　名 どちらかに○	（フリガナ） 氏　　名	[redacted]	前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間 （該当者のみに記入）
1	(理事)・監事	ソウマ　タクヤ 相馬　拓也		令和３年４月１日 ～ 令和４年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
2	(理事)・監事	クリタ　コウジ 栗田　康二		令和３年４月１日 ～ 令和４年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
3	(理事)・監事	サクママサトシ 佐久間　雅俊		令和３年４月１日 ～ 令和４年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
4	(理事)・監事	タケサコ　マミ 竹迫 真実		令和３年４月１日 ～ 令和４年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
5	(理事)・監事	フセ　タツヤ 布施　達也		令和３年４月１日 ～ 令和４年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日
6	理事・(監事)	ホンダシンイチ 本田　新市		令和３年４月１日 ～ 令和４年３月31日	年　月　日 ～ 年　月　日

書式第４号（法第１０条・第２８条関係）

設立・事業報告用

社員名簿（社員のうち１０人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人　ヒマラヤ保全協会

	氏　　名	[redacted]
1	相馬　拓也	
2	栗田　康二	
3	布施　達彦	
4	佐久間　雅俊	
5	竹迫　真実	
6	本田 新市	
7	清田　華代	
8	渡邊　敏雄	
9	大平　篤男	
10	三輪　雅之	